

平成20年3月期 中間決算短信

平成19年11月15日

上場会社名 竹田印刷株式会社	上場取引所 名証二部	
コード番号 7875	URL http://www.takeda-prn.co.jp	
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 斎藤 正俊		
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長 (氏名) 服部 信司		TEL (052) 871-6351
半期報告書提出予定日 平成19年12月20日	配当支払開始予定日	平成19年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 19年9月中間期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月中間期	21,689	(△1.8)	318	(△34.5)	343	(△40.4)	166	(△13.2)
18年9月中間期	22,077	(△2.4)	486	(△29.0)	575	(△25.8)	191	(△52.1)
19年3月期	45,923		1,370		1,515		241	

	1株当たり中間(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年9月中間期	20	46	—	—
18年9月中間期	23	56	—	—
19年3月期	29	64	—	—

(参考) 持分法投資損益 19年9月中間期 0百万円 18年9月中間期 △4百万円 19年3月期 △6百万円

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
19年9月中間期	35,456		14,349		40.4	1,761	77	
18年9月中間期	34,883		14,476		41.4	1,777	22	
19年3月期	36,806		14,405		39.1	1,768	53	

(参考) 自己資本 19年9月中間期 14,333百万円 18年9月中間期 14,458百万円 19年3月期 14,388百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー		財務活動によるキャッシュ・フロー		現金及び現金同等物期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
19年9月中間期	76		△1,100		573		3,184	
18年9月中間期	531		△509		170		2,864	
19年3月期	2,796		△2,085		252		3,634	

2. 配当の状況

	1株当たり配当金					
	中間期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭
19年3月期	8	00	8	00	16	00
20年3月期(実績)	8	00	—	—		
20年3月期(予想)	—	—	8	00	16	00

3. 20年3月期の連結業績予想 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	45,000	(△2.0)	1,030	(△24.8)	1,020	(△32.7)	540	(124.1)	66	37

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 中間連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

〔(注) 詳細は、18ページ「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 19年9月中間期 8,781,000株 18年9月中間期 8,781,000株 19年3月期 8,781,000株

② 期末自己株式数 19年9月中間期 645,300株 18年9月中間期 645,300株 19年3月期 645,300株

(注) 1株当たり中間(当期)純利益(連結)の算定の基礎となる株式数については、36ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考) 個別業績の概要

1. 19年9月中間期の個別業績（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月中間期	11,628	(9.3)	214	(△16.3)	219	(△31.1)	118	(101.5)
18年9月中間期	10,635	(△6.6)	255	(△36.9)	318	(△36.0)	58	(△74.5)
19年3月期	22,234	—	857	—	942	—	103	—

	1株当たり中間(当期)純利益	
	円	銭
19年9月中間期	14	50
18年9月中間期	7	19
19年3月期	12	75

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
19年9月中間期	22,674	11,791	52.0	1,449	32
18年9月中間期	21,682	11,956	55.2	1,469	63
19年3月期	23,148	11,881	51.3	1,460	46

(参考) 自己資本 19年9月中間期 11,791百万円 18年9月中間期 11,956百万円 19年3月期 11,881百万円

2. 20年3月期の個別業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	25,000	(12.4)	680	(△20.7)	720	(△23.6)	380	(266.1)	46	70

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

1 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調を維持しておりますが、原油価格の高騰や金利上昇懸念等、景気の先行きに不透明感が漂う状況で推移しております。一方、印刷業界におきましては、受注競争の激化に伴う受注単価の下落や、用紙をはじめとする原材料価格の上昇などにより、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況下で当社グループは、グループ内組織の再編成を行ってソリューション営業力を高めるとともに、全ての業務プロセスにおいて改善への取組みを強化することで原価低減を図り、原材料の値上げを吸収できるよう努めてまいりました。しかし、当社グループを取り巻く経営環境が一段と厳しさを増しつつあり、当中間連結会計期間の売上高は21,689百万円（前年同期比1.8%減）、営業利益は318百万円（前年同期比34.5%減）、経常利益は343百万円（前年同期比40.5%減）、中間純利益は166百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

当中間連結会計期間におけるセグメント別の状況は以下のとおりです。

①印刷事業 売上高 13,287百万円（前年同期比 5.0%減）

トータル・ソリューション活動を推進するための部門を関東、中部、関西の各営業本部に設置するとともに、関西地区においては連結子会社を含めて組織再編を行うなど、営業体制の強化を図ってまいりました。しかし、商業印刷を中心に受注単価の下落幅が予想以上に大きく、半導体パッケージ用各種マスク類の需要は伸びたものの、売上高は13,287百万円と前年同期に比べ5.0%減少する結果となりました。営業利益につきましても、原材料価格の上昇分を吸収しきれず151百万円と、前年同期比41.9%減少いたしました。

②物販事業 売上高 8,675百万円（前年同期比 3.2%増）

販売先である印刷業界が厳しい状況におかれてはおりますが、全国的な販売網の強化を図り新規顧客獲得に注力した成果により、売上高は8,675百万円と前年同期に比べ3.2%増加いたしました。しかし、顧客からの販売単価の値下要求が厳しく、営業利益は140百万円と、前年同期比27.8%減少する結果となりました。

当連結会計年度におきましては印刷業界における厳しい経営環境は継続するものと考えられ、通期の連結業績見通しにつきましては、売上高45,000百万円、営業利益1,030百万円、経常利益1,020百万円、当期純利益540百万円と見込んでおります。

